

こつそしょうしょう  
骨粗鬆症の薬について

薬剤師 林 靖子  
はやし やすこ

骨粗鬆症は、「骨の生活習慣病」といわれ、食事や運動の習慣が深く関わっています。また、自覚症状に乏しいことから、「サイレント・ディーズ（静かな病気）」ともいわれたりします。



骨粗鬆症は、食事療法、運動療法と併せて、薬による治療が必要ですが、前述のように骨折しない限り治療を受ける患者さんが少ないのが実情です。また、治療を開始しても、風邪などと違って、薬の効果を実感しにくいこともあり、自分の判断で治療をやめてしまう患者さんもいらっしゃいます。骨粗鬆症の治療の目的は、“骨折を予防し、健康で快適な日常生活を過ごすことができるようにする” ことです。薬をやめてしまうと、その目的を達成することができません。ですから、骨粗鬆症の薬は医師の指示に従って継続することがとても重要です。現在主に使われている薬は、大きく3つに分けられます。

- ①骨吸収（古くなった骨をこわす働き）を抑える薬
- ②骨形成（新しい骨をつくる働き）を助ける薬
- ③骨吸収と骨形成のバランスを整える薬

のみ薬、注射薬などがあり、患者様一人ひとりにあった薬が処方されますので、薬を正しく使用し、「骨(コツ)骨(コツ)」と続けましょう。

参考文献：骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版